

2023年 CDP 気候変動スコアで「A⁻」を取得

山陽特殊製鋼株式会社(代表取締役社長 宮本 勝弘、本社 兵庫県姫路市)は、CDPによる2023年気候変動質問書への回答を行い、このほど、リーダーシップレベルに位置付けられる「A⁻」(A マイナス)のスコアを取得しました。

CDPとは、グローバルな環境情報開示システムを運営する英国の非営利団体(NGO)で、機関投資家と連携して企業に対し気候変動への取り組みや温室効果ガス排出量等に関する情報開示を求めています。

2023年は全世界で23,000社以上の企業を調査し、リスクマネジメント、事業戦略、目標と実績、エンゲージメント等の多岐の項目にわたる対象企業の気候変動等への対応について、リーダーシップレベル(A、A⁻)、マネジメントレベル(B、B⁻)、認識レベル(C、C⁻)、情報開示レベル(D、D⁻)の8段階のスコアで評価しています。

当社は、2022年からCDP気候変動質問書への回答を行い、今回は2022年のスコアから1ランクアップした「A⁻」スコアと評価されました。リーダーシップレベルに位置付けられる「A」および「A⁻」のスコアは、脱炭素社会の構築に先導的と評価される企業に付与されるもので、当社が属する金属セクターのカテゴリーでは上位20%にあたります。なお、「A⁻」以上のスコアを取得した国内特殊鋼専門メーカーは当社のみとなります。

また、2023年はCDPによる水セキュリティ質問書への回答を初めて行い、水セキュリティスコアでは、マネジメントレベルに位置付けられる「B」のスコアを取得しました。

当社は、気候変動をはじめとする地球環境の問題が人類の存続に影響を与える重要な課題であるとの認識のもと、2050年カーボンニュートラル実現に向けて2030年度に自社で排出するCO₂を2013年度比50%以上削減するロードマップを策定し、エコプロセス推進やグリーンエネルギー活用等によるCO₂排出削減に取り組むとともに、需要家のCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトや、海外グループ会社に省エネ・生産性向上技術を展開するエコソリューションによるCO₂排出削減への貢献を積極的に推進しています。当社は、引き続きこうした取り組みと情報開示の充実をさらに加速させ、持続可能な社会の実現を目指してまいります。



以上